第 1 2 回
行 方 郡 合 併 協 議 会

平成 1 6 年 9 月 1 6 日 (木)

行方郡合併協議会事務局

第12回行方郡合併協議会 会議録

●日 時：平成16年9月16日（木）午後2時から

●場 所：レイクエコー「大研修室」

●あいさつ

●議 事

（1）協議事項

- ①議会議員の定数及び任期の取扱いについて（継続）
- ②農業委員会委員の定数及び任期の取扱いについて（継続）
- ③消防防災関係事業の取扱いについて（継続）
- ④新市建設計画（案）について
- ⑤使用料、手数料等の取扱いについて
- ⑥町名・字名の取扱いについて
- ⑦国民健康保険事業の取扱いについて
- ⑧福祉関係事業（その1・高齢福祉）について
- ⑨ 同 （その2・児童福祉）について
- ⑩ 同 （その3・社会福祉）について
- ⑪新市特別職の報酬等を審議する小委員会の設置について

（2）その他

●出席委員（35名）

会長	横山 忠市	副会長	伊藤 孝一	副会長	坂本 俊彦
	酒井 勝男		原 延征		高野 貫一
	平野 晋一		齋藤 一男		成瀧 常松
	茂木 正治		宮内 守		塙 仁
	磯山 信也		磯山 茂男		橋詰 芳明
	山崎 實		宮内 勲		鈴木 忠芳
	羽生 勇		山崎 和久		坂本 瑞夫
	兼平 佳子		真家恵久子		大曾根輝江
	大川 久子		吉田 和江		阿部 君子
	篠塚 一郎		河野 秀雄		大崎 博之
	平山 一巳		額賀 宏		
	岡田 克幸（藤咲康二委員の代理）				
	渡辺 博（笠尾卓朗委員の代理）				
	岩上 博（阿部 薫委員の代理）				

●欠席委員

栗又 敏治

●出席顧問

なし

○羽生事務局長 それでは、大変お待たせをいたしました。

本日は皆様方には大変お忙しい中お集まりいただきまして、まことにありがとうございます。本日の司会を務めさせていただきます事務局の羽生でございます。どうぞよろしくお願い申し上げます。

はじめに、伊藤副会長より開会のごあいさつをお願いいたします。

○伊藤副会長 どうも、皆さんこんにちは。ご苦労さまでございます。

ただいまより第12回行方郡合併協議会を開催します。よろしくお願い申し上げます。

○羽生事務局長 それでは、横山会長よりごあいさつをお願いいたします。

○横山会長 それでは、一言ごあいさつを申し上げたいと思います。

本日は、皆様方におかれましては、公私ともに大変お忙しい中、第12回行方郡合併協議会にご出席をいただきまして、まことにありがとうございます。

さて、先日開催をされました国の合併支援本部会議におきまして、取り扱いが決まっておられませんでした国の2つの財政支援策のうち、特別交付税による支援措置について、平成17年3月末までに合併を申請し、翌平成18年3月末までに合併をした市町村へも適用されることが決定をいたしました。これによりまして、7億5,000万円の支援を受けることが可能ということになったわけでございます。

また、前回の協議会におきまして新市の名称が決定をし、いわゆる基本4項目について、すべて協議が調ったわけでございます。合併に向けて大きく前進することができたものと考えておるところでございます。残された協議事項につきましても、円滑な議事の進行に努めてまいりたいと存じておりますので、皆様方には引き続きご協力をお願い申し上げます。私のあいさつにかえる次第であります。

ご苦労さまです。

○羽生事務局長 ありがとうございます。

それでは、早速議事に移らせていただきます。

合併協議会規約第10条第2項の規定によりまして、横山会長に議長をお願いし、議事を進めていただきたいと思います。

よろしくお願いいたします。

○横山会長 それでは、規約に従いまして議長を務めさせていただきますので、ご協力のほどをよろしくお願い申し上げます。

なお、本日の出席委員でございますけれども、35名でございます。協議会規則第10条第1項

の規定に従います定足数に達していることをご報告申し上げます。

まず、会議録署名人を指名させていただきます。

麻生町の平野委員さん、北浦町の吉田委員さん、玉造町の橋詰委員さんをお願いをいたしたいと思います。よろしくをお願いをいたしたいと思います。

それでは、会議次第に従いまして議事を進めさせていただきたいと思います。

まず、協議事項①番でございますけれども、議会議員の定数及び任期の取扱いについてを議題といたします。

在任特例による在任期間について協議をしていただくわけでございますけれども、前回までに、麻生町と北浦町から平成18年11月末までとする意見がございました。玉造町からは2年間とする意見が出されております。再度皆さんに検討をしていただいたと思いますので、ご意見を伺いたしたいと思います。

はじめに、どうでしょう、玉造町さんの方で2年というお話でありましたけれども、もう1回詰めたお話し合いをしていただけたでしょうか。

大曾根委員さん。

○大曾根委員 玉造町の大曾根でございます。

前回のときにお願ひしましたとおりに、やはり、私たち住民の代表といたしましては、2年間ということにこだわっていきたく思っております。と申しますのは、前回も申し上げましたように、短い期間内に合併協議会が立ち上がりまして、それで、何カ月もたたないうちに協議会のすり合わせがここまでやってこれましたけれども、まだまだ十分でないところが、私たち住民の方から見ましてもうかがえるところであります。その十分でないところを議員の皆様方に在任期間いっぱいに使っていただきまして、その中でどのように進まれるかというところを確実に見届けていただきたいというのが、私たち住民の一人として願うところであります。

と申しますのは、玉造としましては、麻生町、北浦町さんの後から入らせていただきましたというところもあるのですけれども、合併に際しまして、玉造町で前回お願ひしましたように、中学校の建設というようなこともありますので、そういうところを十分に盛り込んでいただきまして、確実にそれが実行に移されるかどうかということを見届けていただきたいというのが私たち住民一人として切に願うところありますので、そういうところをはっきりと見届けていただきましてから、議員の皆さんには退任をしていただきたいと願うところが、私たち住民の切実なる願ひであります。

この合併協議会がこれで解散になってしまいますと、合併に関する問題について住民の意見

を反映させていただくという手だてが、現実には携わってきた議員さんをお願いするほかには道はないのではないかと考えるところでありますので、私たち住民の意識が十分に反映される合併であるかどうかというところを私たちが見届けてから、この合併が本当にいい合併であったと思って解散したいと思しますので、ぜひ、議員の皆様には、その住民の意識を十分に酌んでいただきまして、在任期間中に住民の意識を背に、確実なる、よりすばらしい合併に向けて力を十分に発揮していただきたいと願うところで、それで、2年の任期満了というところをお願いしたいと思います。よろしくお願いいたします。

○横山会長 前回と同じ意見というようなことに承りました。

麻生さんと北浦さんでは、やはり前回と同じなんでしょうね。変わらない。

(変わりません)

○横山会長 変わりません。では、ご意見をお聞きしたいのですが、よろしいですか。

宮内さん。

○宮内勲委員 私は、議員の立場でも何でもありませんけれども、この議員の2年間とか、1年2カ月とかと、これは継続でなく早く決まるものではないかと、こういうように思っています。なぜならば、町民のアンケートをとらなくても、一般町民の意見を聞かなくても、大体現在の議員さんの判断一つではないのかと、こういうように思っていたので、議員さんがこの線だという返事が出れば、2年間、あるいは1年2カ月の後。1年2カ月の後の町が2つあるんですから、多数決ではいかないものなのではないでしょうか。その辺のことで。

2年にしたからって、十分に浸透するということは、日にちがたてばということ、そんなに関連するものでしょうか。議員バッジの魅力というのはあるとは思いますが。今ここで代表になって来ている方、12人、間違いなく当選しますよ。そういうもので、半数は残れると思いませんから、市政になってもそんなに溝はできなく、流れるのではないかと、こういうように思っているんですが。不勉強なものですのでよくわかりませんが、そんな考えです。

以上です。

○横山会長 ありがとうございます。

皆さん、なるべくお話し合いの中で在任特例の期間を決めたいと思っておりますので、もっともっと議論をして、多数決ではなくて決めるようにしたいと思っておりますので、ご協力よろしくお願いいたします。

麻生さんの方ではありますか。山崎さん、ありますか。

○山崎實委員 麻生の山崎でございます。

本当に、前回からこの在任期間についてはいろいろ議論されているようでございますけれども、玉造さんの方からご発言がある内容についても納得できますし、また、宮内さんの方からご発言がありました。私も、町民、あるいは今度は市民になりますが、その一員としては、やはり、前回から申し上げているように、1年2カ月、平成18年11月30日を強く希望いたします。

大曾根さんは大分懸念されておりますけれども、今の議員さん方にここで決められたすべてのものを最後までやっていただくように見届けるというようにございまして、しかし、それについては、確かに現在の議員さん方、こういう経過を知っている中で見届けるというのはいいんですけれども、先ほどもちょっと話に出ているように、議員さんが新しくなっても、当然この内容については引き継がれていくわけでございまして、きょうここに3人の町長さんがおられますが、この中でだれかが市長さんになるんでしょうから、十分にそこら辺についても経過をわかっている方が市長になり、今の議員さん方が2年間在任で残らなくても、市の運営というものは十分に図れるのではないかと思います。そういう意味で、前回から申し上げているように、1年2カ月、要するに平成18年11月を町民として希望いたします。

○横山会長 ありがとうございます。

ほかにありますか。

(発言者なし)

○横山会長 それでは、今回は、やはり意見の一致が見られませんので、また継続協議ということにしたいと思います。もっともっとこれは議論をする必要があると思います。

酒井委員さん、お願いします。

○酒井委員 麻生の議長の酒井です。

今、学識経験者の皆さんのお話を、我々議員のいわゆる在任特例についてのご意見をちょうだいしました。また継続審議ということです。ところが、これは継続審議でも、具体的に、どういう形で、どのように協議をして、それで詰めていくというような方式をとらないと、何回やっても、北浦さんの意見、玉造さんの意見、麻生さんの意見というような形でやったら、これは決まらないと思うので。

正直、私が麻生の立場として平成18年11月30日と言ったのは、合併が財政のスリム化を図っていかなければならない。議員の数が54人になってしまう。そういうようなことで、議員の任期は、在任特例が2年認められていても2年全部使うのはいかなものかと、そういうようなことで、見届けるのに十分であるかないかは別問題として、1年2カ月ぐらいでどうなのかな

というのが意見だったわけです。それで、麻生の方は平成18年11月30日でもいいだろうということになったわけです。

これ、2年使いなさいというのと1年2カ月だということになると、これは会長さんをお願いしたいのですが、そういうような論議をする場所を設けていただかないと、どこまで行っても継続審議になってしまうと思います。その辺の在任特例を審議する機関、それは一般の学識経験者の皆さんを交えた方がいいのか、それとも議員さんだけでやったらいいのか、その辺のところはご協議いただくとして、そういう機関をつくっていただいで協議していただかないと、各町で自分たちの主張ばかり言っていたら落ちつく先が見つからないと思いますので、そういうような形でひとつ進めていただきたいと、そのように要望します。

○横山会長 酒井委員さんの方からお話がありました。

橋詰委員さん、お願いします。

○橋詰委員 特例の議員の任期の取り扱いなんですが、合併の日にはもう既に決まったわけですし、事務所の位置も決まりましたので、まず、間違いなく落ちつくところへ落ちつくところ、このように思いますので、今回ぐらいは継続していただいで。また、委員会とか、そういう設置するまでもなく、私は落ちつくところへ落ちつくと思います。

ただ、それぞれ、また、麻生町さん、北浦町さん、玉造なりに考えて、もう少し時間をいただければ、任期のことですから、そんなに特別難しくもないと思います。お互いに合理的な理由がそれぞれあるなら別ですが、今までの流れの中で、やはりはじまってまだ期間も短いものですから、これはこのまま継続していただいで、そのようにお願い申し上げます。

○横山会長 どうですか。

それでは、この次は、いろいろな委員会等々についても検討をしておきます。そういう中で、今回は継続協議ということにしたいと思います。いかがでしょうか。

(異議なし)

○横山会長 それでは、協議事項の①番、議会議員の定数及び任期の取扱いについては、継続協議ということにさせていただきたいと思います。

次に、協議事項の②でありますけれども、農業委員会委員の定数及び任期の取扱いについてを議題といたします。

前回の協議会では、麻生町から選挙による委員について、在任特例1年間、そして、その後の定数を24人とする意見が出されました。北浦町さんと玉造町さんでは、農業委員会からの要請等を踏まえて検討しているということでございました。それぞれ検討をしていただいたと思

いますので、ご意見を聞かせていただきたいと思います。どうぞよろしくお願ひいたします。

どうでしょう。では、宮内さんお願ひします。

○宮内守委員 どうもご苦勞さまでございませう。北浦の宮内でございませう。

農業委員さんの定数及び任期の取扱いで、前回継続ということでもございませう。麻生町の方から24というお話があったわけでもございませうが、北浦町では、持ち帰りまして、町の合併調査特別委員会の中で議論をしたところでもございませう。

その中でも、先ほど継続になりましたが、議会議員さんの定数や任期と同様に、農業委員さんもやはり一般住民の大変関心のあるところであるということでも、時間をかけて議論をしたところでもございませうが、その中で、3町の農業委員会の会長さんからこの合併協議会の会長あてに出された文書がございまして、そういうことも審議の中で検討させていただいたわけでもございませう。

やはり、先ほど酒井委員さんの方からもお話がありましたように、この合併というものが、いわゆる財政の見直し、あるいは構造改革ということが原点ということがあれば、要望にありました27という委員の数はやはり多いのではないかということでも、私どもの方では、実際に数がまとまりませんでした。しかし、公選の数は18から21くらいがあり、意見として多かったのは21ということでの意見が多かったことをご報告させていただきたいと思います。

○横山会長 つまり、在任特例の方は1年、それで、定数は21。

○宮内守委員 18から21。

○横山会長 流動的ですね。21から18という議論があったということですね。まだ結論は出ていないと。

玉造さん、お願ひします。

○埜委員 玉造の方といたしましても、この前の27というのが出た中で、麻生町さんの方から24というような発表がありました。そういった中で、我々も特別調査委員会の中でそういう話をした中では、やはり、27は若干多いのではないかというようなことでもございませう。

そういった中で、当町では、はっきりとした18とか20とかというような数は出なかったわけでもすけれども、3町の中でよくすり合わせてやらなくてはいけないのかなというようなことでも、特別、人数的には何人ということとは出ないということでもございませう。その中で、やはり、27というの若干多いのではないかということでもございませう。そういった中で、まだこういった何人という結論は出ておりませう。

○横山会長 そうしますと、3つの町の考え方は、各会長さんから要望のあった27名の農業委

員さんの定数では若干多いのではないかというようなお話だろうと思います。麻生の方だけが数字を提示してあるわけでありまして、あとは話し合いできちんとした定数を設けなければならないわけでありまして、これは、きょう話し合っただけでできる可能性があるか、それとも次の協議会までに調整をしていくかということ。

はい、どうぞ。

○埜委員 各3町の農業委員会の会長さんが、それぞれ協議した中で27人というような数を出してきた中で、当協議会ではちょっと多いというような意見が多いものですから、もう一度農業委員会の会長さん方によくそういう意向を伝えて、もう一回検討していただいたらどうかというふうには思うんですけども、どうでしょうか。

最終的には決めるのはここということなんでしょうけれども、それぞれの会長さん方が大変ご苦労して、3人の署名捺印ということで来た中で出ておりますので、協議会の方ではこういう意向なんですというようなことを伝えて、その中でもう一度検討した方がいいのかなというふうには思うんです。最終的には協議会で決めるものだと思いますけれども、そういった中も伝えながらいった方がいいのかなというふうには思うんですけども、その辺を協議をしていただければというふうに思います。

○横山会長 そうですね、3町の農業委員会の会長さんから要望が出ております。それで、いろいろ慎重審議を、農業委員会さんの方でも協議したと思うんです。ですから、きょうは継続協議にいたしまして、その間、合併協議会の方から今までの議論を農業委員会の会長さん方に申し上げて、再度協議をしてもらうというような形をとってよろしいでしょうか。

宮内委員さん。

○宮内守委員 ただいま会長さんからお話があったことで私は異論はないのですが、先ほど漏れ落ちというか、意見の発表の中でありましたので、つけ加えさせていただきたいと思いません。

3町の農業委員会長の検討した意見は尊重しなければならないというふうには思っておりますが、そしてまた、この合併する地域が、茨城一、あるいは日本一の農業の地域になろうとしているというふうにも理解をしております。しかし、県内の状況等を見ても、議員定数を超えている自治体は少ないというお話もありますので、やはり、所期の目的を考えますと、できれば議員定数になるべく近い数で集約をするのがいいのではないかということで、要望をしておきたいと思えます。

また、先ほど埜委員さんが言われておりますように、最終的にはこの協議会で決定というこ

とでよろしいと思います。よろしく申し上げます。

○横山会長 宮内委員さん、1つだけお伺いしたいのですけれども、農業委員さんには公選と官選がありますよね。それはいわゆる公選の方の話ですね、議員さんをオーバーしてはいけないと。

お願いします。

○宮内守委員 それは、調査してみますと総体です。官選も含めてということでございます。

○横山会長 これは厳しいご意見だと思います。これは、本当に行財政改革を断行しなければならぬわけですから、大変だろうと思いますけれども、この公選、それから官選、全部足して24の下。

○宮内守委員 24前後ということですか。それは要望ですから。

○横山会長 それは、ここで議論はいいんですけども、やはり、いわゆる農業委員さん方の各地域の割り振りとか、よく聞いてみますといろいろあるそうですよ。農地法の第3条とかいろいろ、それから生産調整とかあるそうなので、その辺も踏まえて、ここで削ると言ってしまうとあれですから、そのような要望で聞いておいてよろしいですか。

○宮内守委員 ただいま会長さんからお話があったものは、私たちが3町の合併における農業委員会の状況ということで報告をしていただいております。そういう中でのお話でございますので、よろしくお伺いしたいと思います。

○横山会長 それでは、農業委員会の方にもう一回検討をしていただくように対応したいと思います。

ほかにありますか。

はい、どうぞ。

○橋詰委員 それで結構なんですけど、我々にも資料として、農業委員会のやっておられる仕事は大部分が農地法の3条、4条及び5条、この関係だと思うんです。それに対して、北浦さん、麻生さん、玉造のそれぞれの委員会でどのぐらいの件数を月間または年間で審議されている事項があるのか、その実態をある程度参考にしたいと思いますので、過去二、三年間ぐらいの審議案件、3条、4条及び5条関係、それがメインだと思いますが、そこら辺の資料がありましたらきょうの委員さんに提供していただきたいと、そのように思います。よろしく申し上げます。

○横山会長 そのようにさせたいと思います。

それから、3条、4条、5条ばかりでなく、農業に関係するあらゆる事業、それに農業委員

さんが携わっておりますので、その辺も精査して、皆さんにわかるように提示したいというふうに思います。

それでは、皆さんにお諮りをいたしたいと思います。

この②番の農業委員会委員の定数及び任期の取扱いにつきましては、継続協議とさせていただいてよろしいでしょうか。

(異議なし)

○横山会長 それでは、継続協議ということにさせていただきたいと思います。

次に、協議事項の③でありますけれども、消防防災関係事業の取扱いについてを議題といたします。

さきの協議会におきまして、合併時の消防団の組織についてご意見があり、継続協議となっているところでございます。合併時の消防団の組織の取扱いについて、その後検討をしてきていただいた結果を皆さんにお伺いをいたしたいと思います。どうぞよろしく願いいたします。

宮内委員さん、お願いします。

○宮内守委員 手を挙げなかったですが、指していただいてありがとうございます。

どこから議論していいのかわからないのですが、いずれにしても、例えばですけれども、今の3町の団の人たちのだれを減らすとか何とかというものでお話ししたことではないと思うんですが、この間の支団消防団組織というのは、一つも我々が思っている構造の改革にもなっていないし、当然これでは財政の見直しもないということでお話したわけでございます。

きょう、新しい私の対案というか、そういうものを持って、整理してこなかったのですが、いろいろな意見を聞きまして、私も消防団は20年お世話になりました。我々の議会にも副団長を先般までお務めした方もいます。我々も地域の消防の皆さんにもお話を聞きました。決してそういう団長の上に支団長をつくる必要性を、私が聞いている範囲では、喜んで人はいなかったということございまして、そういう意味で。

また、もう一つは、これは離れては申しわけないんですが、麻生はかなり多いです。麻生の第1分団から第12分団までありますが、これは余計な、蛇足になって申しわけないのですが、麻生の区長制度と連動している部分もあるのかなとは理解しております。そういう意味で、麻生もでき得れば、来年の9月に合併ということでございますので、それまでに整理すればいいのですからあれですが、麻生の区長制度と同じように、協議会の会長である横山会長さんには、地元の構造改革をよりスマートにしてもらった方が、よりよい、将来どういう大きい政治家になるのではないかと期待しながら、やはり、こちら辺も特段のご協力をいただいてやるべ

きことが当然必要なのではないかというふうに考えます。私の考え方が間違っているならば、逆にお聞かせいただきたい。

それから、皆さんも、ここにいらっしゃる委員の中で、どうぞご異論があれば、私は受けて、答えられるものは答えたいと思いますので、よろしくお願ひしたいと思います。

○横山会長 ありがとうございます。

ほかには、皆さん、今の議論の中ではお話ありませんか。

○坂本副会長 玉造町長の坂本です。

消防団に関して、一言私の意見として話したいのですが。

消防団は、どこでも自治消防に関してはボランティアでお世話になっている、私も消防団には敬意を表しているわけで、消防団の団長さん、役員とちょっとお話をしました。それで、こういう形であるということも意見は話してあるし、多分、十分承知していると思います。

事務サイドとのすり合わせの中で、こういう形でやりまして、確かに支団長なんかは要らないのではないかというようなことですが、多分、この中に3年間の経過措置の中で盛り込んでいただきたいということがあったかと思うんです。そういうことであれば、やはり、ボランティア的に消防さんには大変お世話になっている、私は首長としてそういうものを感じているものですから、できればこういう形でお願ひできればなということでございます。

確かに、副団長があつて団長があれば、副支団長は要らないのではないかとか、また、麻生さんに関して数が少し多いだろうということであるが、やはり、麻生さんは麻生さんの事情で、そういうのをすり合わせ、この期限の中、やはり、消防ばかりでなくて、私は、いろいろな面ですぐそこで決めてしまうのではなくて、今までの流れの中、この場合はまた違う面があるのですが、そういうのを考慮しながらやるのが、やはり合併がうまくいくのかなと思いますので、そういう考えで、私は今述べさせていただきました。よろしくお願ひします。

○横山会長 ありがとうございます。

では、こちらにも。

○伊藤副会長 北浦町長の伊藤です。

宮内委員さんのおっしゃるのも、全く私もそのとおりで思っておりますけれども、やはり、消防団の団長さんをはじめ、役員の方々に聞いたところによりますと、この制度は県の方の指導のもとにおいてつくったとか、また、消防協会の指導のもとにおいてこの組織を立ち上げたというようなところでありまして、消防団の方々も、改革をするべきだということは認識をしながら、また、よりよい消防団の活動をするためにこういう組織をしたというようなこと

を聞いているところでございます。

そういう中で、坂本町長さんからもおっしゃったように、また、消防団の活動は、やはりボランティアというようなことも含まれているというようなところでございます。そういう中で、北浦町にとりましても、なかなか団員もやる人がいなくて困っているというようなところで、団員確保も問題になっているというようなところで、ここで減らすばかりが能ではないというような意見もありまして、より消防活動を綿密にして、機動性を発揮して、住民の安全安心のために活動したいというようなところであります。

そういう中で、やはり、3年以内には皆さんのいろいろなご意見を尊重しながら改革をしていきたいというようなことがありますので、委員の皆さんにそういうことを申し上げてご理解をいただきたいというようなご意見を伺っておりますので、よろしくお願い申し上げます。

○横山会長 ありがとうございます。

宮内委員さん、お願いします。

○宮内守委員 ただいまの伊藤町長の滑り出しはよかったんですが、結論が若干違うなというふうに思ったんですが、県の指導ということですから、県内で支団制度をとったのはどのくらいあるのか、参考にお伺いをしたいと思います。

また、減らすばかりが能ではないと、ふやしているわけですから、減らしているのではないでしょう。私は、団員を減らせとか何とかという話をしているわけではないです。ですから、そういうところを若干補足してください。

○横山会長 わかりますか。資料がない。

それでは、宮内委員さん、県の方では資料がないそうなのです。

○宮内守委員 では、何で、伊藤町長さんでもそちらの方で、県の指導ということなんだけれども、ではこっちではないんですね。県もいっぱいありますからね、それはあるんでしょうけれども、いずれにしても、それぞれ思いはよくわかりますが、私も個人の意見で言っているわけではありません。議会の中での合併調査特別委員会の中で、全会一致でこれはいただいたわけですから、その方向転換をするということは、私はここでお許しいただいておりませんから、他の意見があればもう少し聞いていただいて、お願いしたいと思います。

○横山会長 これもなかなか意見の集約が難しい状況になってまいりました。これも、消防団ともう一回詰めなければ、なかなか見えてこないような気がするんです。玉造さん、麻生さんの方でほかに何かご意見ありますか。

羽生委員さん。

○羽生委員 きょうは大変ご苦労さまでございます。

この前台風が大分上陸して、今、かなり方々で自治消防というものが活躍している中で、非常に少ないということで、国の方針が、この前テレビ等でもあったし、新聞等でもちょっと見たんですけども、今の数字からここで見ると、やはり、鹿行では多いのかなという、多いというか、これが妥当な線だと思うんです。幸いにしても、今回この辺は恵まれた地域であるということで、非常に、日本列島、九州から東北、中部、全部あらゆるところで台風が吹き荒れた。その中では、やはり自治消防はもっとふやすべきだというような声も聞いております。

そういう中では、組織を、今皆さんお話しているように、やはり、3年間の間にすり合わせをしていったらいかがなものかと。本当に、この辺にあの台風が来たならば、やはりこれは大変なものが。私も消防は20年ぐらいやっていますけれども、やはり、地元の協力がなくては、できない問題もかなりあるということも事実でございますので、先ほどから言っている減らせとかふやせとかではなくて、やはり、こういうものの組織を3年間のうちに改革していった方がよろしいのかなと、私はそういうふうに考えていますので、どうぞよろしくお願いします。

○横山会長 ありがとうございます。

はい、どうぞ。

○埴委員 今、それぞれ意見が出ましたけれども、そういった中で、団員を減らせとか、そういうことだけ言っているわけではないかなというふうに思います。この組織をもう少しスリム化していただきたいということが、一番の北浦さんの言っているあれかなというふうに思います。団員を減らしてどうの、ふやしてどうのというような話ではないかなというふうに思います。今、羽生さんが言うとおりの、確かに、災害が来た場合には、何でもかんでもそういう方にお世話になることは十分理解はしております。そういった中では、団員が多い少ないというのは、これが妥当か何かまではよくわかりませんが、今、この議論されているのは、もう少しスリム化した方がいいのではないかなというふうな組織です。例えば支団長がどうの、副団長がどうのということで、そういう役をふやしてばかりではどうかなということだと思えます。そういうことをもう少し見直していただければ、団員を減らせとか、これは要らないということではないというふうに思います。

そして、あとは麻生町さんの方で12分団で1分団長1人がいるというようなことも、この際だから、できればもう少しまとめていただければいいのかなというふうには思います。ひとつ、そういう点でご理解をいただき、よくもう一回消防団の方にお伝えを願い、協議をしていただければというふうに思いますので、よろしくお願いをしたいと思います。

○横山会長 ありがとうございます。

それでは、これは、やはり消防団と話し合っただけで決める以上は絶対決まらんと、これは組織ですから、消防団という江戸時代からの大きな流れの中での消防団、これについて、ここで簡単にあだのこうだのと言って決めるわけにはいきません。ですから、もう一回事務局を含めて消防団の幹部の方々と話し合っただけで、それでもう一回いろいろな提起をしてもらうというようなことにしたいと思います。

それと、団員の数を見ますと、麻生が 501名、北浦が 406名、玉造町が 563名、こういう全団員の中での組織の図があると。これも、ここであだのこうだのと言って、何々地域と何々地域を合併しろとも言えないし、いろいろな状況の中で、決してその議論を飛躍しないで、じっくりと、3年なら3年の間に改革していくというようなことに落ちつけていただければ幸いであるというふうに思いますので、ひとつこれからよろしく願いをいたしたいと思います。

それで、協議事項の③でありますけれども、消防防災関係事業の取扱いについては、消防団とさらによく話し合っただけで、合併協議会の方からもお話し合いを申し込みます。そういう中で協議をしてまいりたい。そして、この次の協議会までに皆さんとよい議論ができるような状況にしたいと思いますので、よろしく願いをいたしたいと思います。

それでは、この件につきまして、継続協議としてよろしいでしょうか。

(異議なし)

○横山会長 それでは、継続協議ということになりました。よろしく願いをいたしたいと思っております。

それでは、3時まで、暫時の間休憩とさせていただきます。

(休憩 14:45 ～ 15:00)

○横山会長 それでは、休憩前に引き続きまして会議を開きたいと思っております。よろしく願いをいたします。

協議事項の④でありますけれども、新市建設計画(案)についてを議題といたします。

前回玉造町さんから出されました学校等の整備に関する等につきまして、事務局より説明をお願いいたしたいと思っております。

また、前回までに分割して提案・協議をしてまいりましたものを今回1冊にまとめておりますので、お配りをいたしますので、あわせて説明をいたしたいと思っております。

よろしくお願ひいたします。

○江寺事務局次長 それでは、事務局で説明をする前に、冒頭会長の方からもありましたように、国の合併支援本部の方で、国の財政支援措置の取り扱い等、支援プランの取り扱いということになりますけれども、過日、8月31日になりますが、決定になりましたので、その内容を市町村課の方から説明いただいて、それから建設計画の説明の方に入りたいと思います。

お願ひします。

○横山会長 それでは、よろしくお願ひします。

○岡田委員（藤咲委員代理） 前に北浦の委員さんからのご質問があったと思うんですが、合併特例法の今の支援措置の中で、いわゆる法律に基づく支援措置と法律に基づかない支援措置があると。この法律に基づく支援措置については、当然法律が平成17年3月から1年間の猶予期間というか、経過期間が認められましたので、この部分の支援は間違いのないところが、一方、法律に基づかないものについては、おおむね8月ごろに国の会議が持たれて、その中で明確になるであろうというお話を前にしていた記憶があります。

そういう中で、今事務局の方からありましたように、8月の末に、国の方の合併支援プランといいますが、これの会議がありまして、基本的に、法律に基づかない支援の中でいわゆる交付税措置をするもの、特別の交付税措置というんですけれども、ここの部分については、この経過期間、いわゆる平成17年3月までに申請をして、平成18年3月まで1年間の経過期間の中に合併した地域についても、継続して支援をしていこうということが明確になったわけでございます。

そういうことで、冒頭会長さんの方からおおよそ7億5,000万円というお話があったと思いますが、この部分について特別の交付税措置が認められてきたということでご理解をいただきたいと思ひます。

一方、その支援本部会議の中で、国の支援本部の中で、財政的な部分、いわゆる予算措置を特に伴う、皆さん方よく聞いていると思ひますが、合併の補助金なんですけれども、これについては、当然我々の方の上になるというか、旧自治省ですけれども、総務省関係は、当然合併を勧めるのだからこの部分は何としてもつけてくれと、こういう要望を概算要求でやっているわけなんです、一方の財務省の方としましては、「いや、そうはいったって、どのくらいの金が必要なのか」と、目玉が飛び出るぐらいの金が必要なわけなんですけれども、その部分については、それは財政の折衝の中で決めていきたいと思いますということになりまして、こちらの当地域でいきますと、おおよそ3年間で4億5,000万円というのが計算上出てくるんですが、こ

の部分についてはまだはっきりしていない。これは、秋といたしますか、大体12月なんですけれども、予算措置折衝の中で明確になってくるということでございます。

そういうことで、今回のこの提案しております建設計画の中の後ろの方に財政計画という部分がございます。この財政計画については、特交措置の7億5,000万円は入るものということで計算をしているということです。ですから、4億5,000万円が、これから県に申請、あるいは国へ持っていくこの合併がまとまった中での最後のときに、ついているよということになれば、財政計画は収入がこれプラスになるわけです。そういうことをご理解をしていただきたいと、こういうことでございます。

前に本当にご心配をかけまして、それならば合併日がどうだこうだという議論まで発展したと思いますけれども、国の方では、この7億5,000万円の方の特交措置については認めますと、継続しますということになりましたので、ご報告ということでございます。

以上でございます。

○森坂計画班長 それでは、合併まちづくり計画、建設計画につきましてご説明をしたいと思います。皆さんの方に1冊の冊子で「合併まちづくり計画」ということで、計画の前半部分、それから後半部分、さらには、最後に財政計画ということで載ってございます。前半、後半、それから財政計画と、それぞれ各委員さんからご意見、ご要望等がございました部分につきましては、計画の方に盛り込んで作成をしております。

また、この計画の中で、新市におきます県事業という大きな項目があったかと思うんですが、その県事業につきましては、項目立てをしませんで、それぞれのまちづくりの計画の各施策の欄に、県事業ということで別枠で掲載をさせていただきました。

ページ数でいいますと37ページの方に、「産業の振興」の欄に、県事業ということで、北浦複合団地の造成事業と、一般県道潮来土浦自転車道線整備事業ということで載っておりますが、こちらの、前回霞ヶ浦自転車道整備事業というような名称で県事業の方に入っておったんですが、名称を変更していただきたいというようなことがございましたので、この一般県道潮来土浦自転車道線整備事業ということで、県事業としてここに記載をしております。それから、41ページの方に、同じく道路の整備でございますが、県事業としまして、それぞれ国道のバイパス整備、あるいは県道の整備ということで、5本の整備計画をここに記載をしております。よろしくお願いをしたいと思います。

それから、前回、玉造町の橋詰委員さんよりご指摘のございました学校教育施設の整備計画につきましては、1枚で、別紙案ということで皆さんの方に行っているかと思うんですが、建

設計画書の34ページの「教育・文化の充実」の施策の方針の中に「学校教育の充実」という欄がございますが、この「学校教育の充実」の文章の中に、その文末に「なお、昭和40年代に建設された老朽施設については、速やかに整備し、均衡ある教育環境の充実を図る」という文言をつけ加えるということでご提案をしたいと思います。

学校教育施設につきましては、古く、老朽化した施設が多くございますが、特に、玉造町の中学校につきましては、昭和40年に建築ということで一番古く、また、昭和40年代の学校教育関係の施設でいいますと、麻生町におきましては中学校が1校、小学校が1校、北浦町におきましては小学校が1校、玉造町におきましてはすべての小学校が昭和40年代建築ということで、それぞれ老朽化が進んでおります。いずれにしましても、古い校舎を優先的に、計画的に整備をしながら、均衡ある教育環境の充実を図る必要があります。したがって、別紙のとおり、計画書への文言の追加文ということでご提案をしたいと思います。

それから、先ほど県の方からもご説明がありましたように、国の市町村合併支援本部会議におきまして、現行の合併特例法の経過措置の対象となる市町村においても、国の市町村合併支援プランの対象とするというような決定がなされました。したがって、国の特別交付税措置を合併年度から3年間にわたりまして、合併を機に行うコミュニティ施設の整備、あるいは新たなまちづくり、公共料金の格差是正などに対する特別交付税ということで、約7億5,000万円を計上いたしました。平成17年度から19年度まで3カ年につきましては、財政計画の歳入の地方交付税の欄に参入をしてございます。

したがって、平成17年度は総予算で158億1,800万円、平成18年度が158億100万円、平成19年度が152億6,500万円となっております。以後、平成20年度以降につきましては、前回のご提案の財政計画と同じでございます。なお、先ほども説明がありましたように、国の合併市町村補助金につきましては、まだ取り扱いが決まっておきませんので、計上はしてございません。

以上、建設計画です。ご協議のほどよろしくお願いいたします。

○横山会長 ただいま、事務局からの説明が終わりました。

それでは、皆さんにご意見を伺いたいと思います。

お願いします。

○橋詰委員 玉造の橋詰なんですけど、この新市建設計画の変更についての案の、今の財政計画と絡んで、学校教育の充実、これに対する文末に下記の記述を追加する。「なお、昭和40年代に建設された老朽施設については、速やかに整備し、均衡ある教育環境の充実を図る」とこう

ありますが、私が前回申し上げましたのは、玉造の中学校及び幼稚園、これについては切にお願いをすると、麻生さん、北浦さんに比べまして著しく古いというような意味合いで言っているものですから、これについてはご同意を得たと思っておりますので、これを本案の中にできれば具体的に書いていただければ。これでは抽象的でありまして、玉造の中学校とか幼稚園とかというものについては全然、老朽施設ということだけですので、これでは意味がどのように解釈されるかという問題も発生しますので、お願いをしたいと、こう思います。

また、給食センターも、玉造は一番立ちおくりしておりますウエット方式でありまして、北浦さん、麻生さんはドライ方式で最新型の給食センターを持っていて、この3つに関しましてはですね、玉造は完全に麻生さん、北浦さんに比べれば立ちおくりしている。これを行方市という1つのまちになった場合、やはり、均衡あるというような意味合いからすれば、これは名前を特定していただいて、本案にこれを書き加えていただきたい、そう思わずにはいられないわけでありまして。これは、予算規模もかなりかかりますし、また、教育問題での最大の中学校。または、玉造にとっては統合幼稚園、給食センター、課題でありますので、それを切にお願いをしておいたわけなんですけど、これでは、文言からそういうような玉造の問題ということは、全然見た感じでは難しい。そう思いますので、これはよろしく検討をして、本案に書き加えていただければ幸いですかなと思います。よろしく申し上げます。

○横山会長 ただいまの橋詰委員さん、この前と同じ意見であります。これについて、事務局で何かお話することはありますか。

お願いします。

○江寺事務局次長 前回ご提案をいただきまして、反映の方法については事務局なりに勉強をさせていただいたところでございます。本文についてはある程度いじらずに、別紙ということも考えたわけでございますけれども、ご提案がありました内容を本文に最大限盛り込むということの趣旨で、今回案文をつくったというようなスタンスでございます。

それから、ただいまの老朽施設の件につきましてですけれども、協議会の中で3町の主要施設の整備状況、これにつきましては、建築年次、面積等を含めた資料を以前お配りをさせていただいておりますので、委員の皆様方におかれましては、3町の施設がいかなる状況かということ、その資料だけではなくて実際にごらんになっているものも当然あるかと思っておりますので、そういう認識もされているであろうということも、事務局では今回の文章の背景として考えております。

それからまた、今回の議論の中で、普通建設事業につきましては、小・中学校、幼稚園、そ

ういうものを含めまして、教育施設の充実、庁舎も含みますけれども、そういうものに特化した中で考えていきたいということで、財政計画なり建設計画の説明もさせていただいたところでございます。

それから、ご提案いただいた内容、それに対する答弁という形で、議事録の方もきちんと署名をいただきまして、これは新市に当然、合併協議がこのように行われて、このような答弁、このような質問があったということも残されるということでございますので、何分、その辺最大限この前のご協議の内容を建設計画の本文の中にこれまでの経過を含めまして入れさせていただいたということで、ご理解を賜ればありがたいというふうに考えております。

以上でございます。

○横山会長 橋詰委員さん。

○橋詰委員 それでは、お尋ねしたいんですが、普通建設事業費の中で、平成17年度、18年度はそれぞれ13億円、または14億円ぐらいでありまして、平成19年度は普通建設事業費が20億200万円、平成20年度が40億200万円、平成21年度が35億200万円というような経過になっております。そうしますと、この40億200万円の平成20年度、これが平成26年度までを見渡した中で一番大きな普通建設事業費ということになっております。その次になっておるのは平成21年度の35億200万円ですか、この平成20年度、21年度、これで玉造の今言った中学校または統合幼稚園の問題、それと給食センター、これについての増額分だというように財政計画は立てられておられるのでしょうか。

それと、庁舎の問題はこれに含まれてないと思うんです。そうしますと、予算的な、財政的な支出の中で庁舎の分がないとすれば、これは全部玉造の今言った、リクエストした分についてのお答えの財政計画なんでしょうか。

○横山会長 事務局よりお答えをいたします。

○江寺事務局次長 資料の方を探しておりましたので、失礼をいたしました。

この建設計画の中に、この前お話を申し上げました中で庁舎が入っております。それから、中学校を建設する部分、それから小学校について、これはきちんとした整備計画を立てた後ということにはなりますけれども、実際に言うと3校分という形になりますけれども、盛り込んでございます。それから、幼稚園の整備というのも盛り込んであります。この実施年度というものが、あくまでも、この財政計画の中できちんとその辺を盛り込んでありますけれども、これをいつということに確約ということをするものではないというふうに事務局で認識しております。例えば中学校の整備でいいますと総事業費で20数億円かかるのかなというふうに考えて

おりますけれども、そういうものを盛り込んでございます。

この表からどのように見ていただくか、その内容ということを個別に説明をして、この年度にこれをやるんだということのコンクリートは、若干今の段階では避けさせていただきたいと思いますが、先ほど申し上げました建設計画の本文に盛り込ませていただいた趣旨をもとに整備をしていくというものだという認識のもとにこの財政計画をつくってあるということについては、お話をさせていただきたいと思います。

○横山会長 はい、どうぞ。

○橋詰委員 そういう趣旨であるとするれば、私は、本案に特定した名前を書き入れてもらっても、だれも反対する人がいなければここでぜひお願いをしたいと、こう思っております。だれも異議がございませんでしたら、本案に今の玉造の3つの問題、特におくれておりますので、切に文言の中に入れていただくようお願いしたいと思います。

○横山会長 事務局でどうですか。これは、この計画の中に入れることが可能なのか、できないのかできるのか、どちらなの。

○江寺事務局次長 計画の中の、当然計画の位置づけというものもありますし、前回説明をさせていただきましたように、この建設計画というものにつきましては、新市のまちづくりのマスタープランである、青写真であるということでは間違いないと思います。できる限り我々も町民の意向を踏まえてつくるという立場では、これまで進めてまいりました。ただ、今後新市におきまして、改めて総合計画をつくり、実施計画をつくり、という作業を進めるということからしますと、この前鹿行総合事務所の方からも説明がありましたように、ほかの協議会の建設計画を見ましても、そこまで具体的に書いてある例というのはどうかなということでお話がありましたようなことでございますので、建設計画の表記の方法、盛り込む内容ということにつきましては、このような内容でご理解を賜りたいというふうに思っております。

○横山会長 はい、どうぞ。

○橋詰委員 この合併協議会で認知していただければ、これは別に書くこと自体の違法性というものは、皆さん合意の上でやるのであれば何ら問題がないと、私はそのように解釈いたしております。それによって阻害されるものがなければ、私は文言の中にぜひ入れてもらいたい。これは玉造の各自の方から言われておりますので、皆さんの同意をこの場で得られれば、今の玉造中学校の問題、幼稚園の問題、給食センターの問題、それに、この予算書、財政計画だけ見たのでは、本庁舎の建設計画も絡んでくると極めて流動的な問題が含まれておりますの

で、その流動的なものということのためにこの玉造の要求が流されてしまうということも時の流れとともにあり得ることですので、今ここで、この文言の中にぜひ入れてもらいたい、このように思うわけです。これは、ひとつお諮りして、何とかお願いしたいと思うわけです。

○横山会長 宮内委員さん。

○宮内勲委員 私の見たところでは、この学校教育の充実、この下に、事務局の方では「なお、昭和40年代に建設された」と、こういうふうに入っておるので、これで十分ではないかと思うんです。

そして、今玉造さんからおっしゃられる形をとるならば、(2) 施策の方針ですよ、その下に①の学校教育の充実、②の生涯学習、こうなっているので、地名が入るほど具体的にすれば、ここは①の下は(ア)あるいは(イ)と、こういう順に下がってきて具体性になってくるんだと思うんです。そうしますと、全項目そういう項目を入れるのはどうかなと、こういうように思います。事務局のおっしゃる後へ入るので、整然としているのではないかと思うんですが。

以上です。

○横山会長 ありがとうございます。

ほかにありますか。

山崎委員さん。

○山崎和久委員 北浦の山崎です。

この財政計画なんです、全体に見て、この合併のまちづくり計画書なんです、これは、前回からずっと合併協議会で方針を決めて、執行は新しい市議会のはずですよ。それを今ここで盛り込んだりするというのは、私は住民代表として来ていますが、そこまでの責任はないのかと思います。ですから、ここで要望をつくって、新しい市議会で審議をしてもらい、そこまでは私は意見を出せますが、それ以上の予算の執行とか、何々をいつ建てるとか、そういうのは、私のここへ来ている意義ですか、目的というか、選ばれてきている部分以外だと思いません。

以上です。

○横山会長 ありがとうございます。

ほかにありますか。

橋詰さん。

○橋詰委員 それは、充実した中学校ができて、または完備したそういう設備ができて

いるところであるならば、我々も言いません。麻生さん、北浦さんに比べて、玉造の中学校は老朽化しているというようなこと、また、統合幼稚園の問題もあります。これについて、後はどうなるかわからんけれども新しい議会にお任せするんだでは、私たちは、これはなかなか承服できないところがあるわけでありまして。それならば、玉造の立場としては、玉造も施設整備基金というようなものもあります。そういうものも取り崩して、では、後でつくってしまうというようなことまで考えなければできないのかなど。

文言で入れていただければ、それで済むことだと思うんですよ。そういうことをご理解はできると思っています。同じ行方市になって、片方は最新式の中学校が2つある、玉造はおくれているというようなことではおかしいと思うのが自然だと思うんです。それでお願いをしているわけですから、文言に入れることは、私是一向に差し支えないんじゃないかと、こう思うわけです。それで、文言に入れること自体が皆さん合意していただければ、何ら、私は、この場で決議していただければそれで結構だと思うんです。それでお願いをしているわけなんでありませぬ。

玉造の中学校は一番古いですよ。年度に当たりますと昭和39年、40年ですから、そうしますと、平成14年度、または15年度につくられた中学校に比べますと何十年かの建物のギャップがあるわけです。その点をご理解いただきたいと思っております。

○横山会長 なかなか議論があるんですけども、ちょっと参考までに。玉造の中学校さんが一番古いんですね。昭和40年建設。

(39年と40年)

○横山会長 ここに昭和40年と書いてあります。

それで、麻生中学校が昭和42年です。2年おくれてできているということで。それから、小学校が、玉造さんが古いです。そういうことは、これを見れば一目瞭然にわかると思うんです。それで、この協議会でこの老朽化した学校から建設をしていくんだというような提案をしていただいて、先ほど山崎さんの方からお話が出ましたように、新しい執行部、新しい市議会の中でいろいろ研究をしていくというのも、一つの大きな課題であろうと思うんです。

気持ちはわかります。「玉造」と入れてほしいという気持ちはわかりますけれども、そうするとみんな入れてくださいと、あれもこれもと、玉造と比べてないものは、ではこちらへ入れてください、そちらが入れてくださいという話になりますと、なかなか信頼ある協議会というわけにはいきませんので、ひとつきちんとした、お互いに信頼関係があれば、そういう状況の中で進んでいかなければ、なかなかうまくいかないような気がするんです。ですから、ひとつ

そこは信頼関係で、事務局が一生懸命考えたろうと思うんですが、この下記に入れるというようなことで、橋詰委員さん、どうでしょう。

埴委員さん。

○埴委員 それで、この追加の文言ですけれども、「なお、昭和40年代に建設された老朽施設については、速やかに整備し、均衡ある教育環境の充実を図る」ということになっておりますけれども、会長が言うとおりの建設とは一言も、「昭和40年代に建設された」といえば「建設」は入っていますけれども、次に「建設をします」ということは書いてございません。それで、速やかに整備するという事の中に、整備ということは、雨漏りは、では修理してそのままなのかとか、いろいろなことがあります。

それで、私どもで話し合った中では、昭和40年代に建設された老朽施設については、現時点計画してある玉造の町は、もう2年ぐらい計画して、設計、基本構想とか、そういうものも入っております。そういった中で、「計画してあるものについては最優先的に建設し、教育環境の充実を図る」ということで入れていただければいいのかなというふうに思います。先ほど橋詰さんが言いましたとおり、整備資金等々も玉造町はあるということですので、そういったものも入れていただければいいのかなというふうに思います。

それで、先ほど山崎さんが言いましたけれども、次の人に渡せばいいんだということは、では、この協議会は何もやれないのかと、これが出てきてものをそのまま通せばそれでいいのかなというふうには、私は感じたんですけれども、そうではなく、この協議会でいろいろなものを、北浦さんは北浦さん、玉造は玉造、麻生さんは麻生さんということで、それぞれ協議をしていって、いいものを継いで、次の方に渡していくのがベストではないかというふうに思いますので、その点もご理解とご協力をお願いしたいというふうに思います。

○横山会長 それでは、事務局の方から、今、埴委員さんの方でお話ございましたことをお答えいたしますので、お願いします。

○江寺事務局次長 先に、1点だけ確認をさせていただきたいんですけれども、今現在計画されているものというお話がありましたので、多分、現計画についてはということ、盛り込むとすれば、盛り込むということになると思うんですが、一応確認で、現在計画されているものについては、どれとどれとを今埴委員さんがおっしゃられたのか、もう一度確認だけさせていただきたいんですが。

○横山会長 はい。

○埴委員 中学校、幼稚園等が、特にその中には入るかというふうに思います。

○横山会長 それでは、事務局の方で少し整理をしますので、暫時休憩をとりたいと思います。15分くらいの目安で休憩をいたしますので、よろしくお願いいたします。

(休憩 15:36~16:00)

○横山会長 事務局よりお願いいたします。

○羽生事務局長 それでは、説明申し上げます。

34ページの「学校教育の充実」の文末に下記の記述を追加するということで、今お手元の方に配付した文面を追加するということで、ご提案を申し上げたいと思います。追加の文面について朗読をさせていただきたいと思います。

「なお、昭和40年代に整備した老朽施設については、現時点で計画している施設を優先的に建設し、教育環境の充実を図る」という文面を追加して、提案したいと思います。よろしくお願いいたします。

○横山会長 ただいま事務局から、いろいろ協議した結果このような提案がなされました。これについて何かご質問等ありますか。橋詰委員さん。

○橋詰委員 本文については大幅に譲歩をさせていただきまして、玉造という特定のところが入ってないのですが、お願いしたいのは、資金の問題なんです、玉造の施設整備基金、これも蓄えを使うことになるかと思えます。玉造の持っている施設整備基金、これはかなりまだ残っていますので、これについての利用は玉造のためにとということで当初から約束されていたこととありますので、別紙に、玉造中学校、または玉造幼稚園、そういう問題について使用するということをお願いをしたいと思えます。

これは、玉造の町長が先ほど言ったように、玉造も持参金つきでということで、その蓄えた施設整備基金が別途に使われるということが一番町民からは心配されています。中学校建設のために用立てしていただく基金でもありますし、統合幼稚園についての計画もありました。そういうものを持ってくるわけですから、別紙にこれを織り込んでいただくをお願いしたいと思います。う次第です。

○横山会長 それでは、事務局でどうでしょう。

○橋詰委員 それと建設の日限、これはいつでもいいというわけではありませんので、できるだけ北浦さん、麻生さんと遜色のない施設を早急につくるというような意味合いで、これはある程度日限を切って、別紙でお願いをしたい。

○横山会長 橋詰委員さん、これは協議会で、今まで基金で積み上げたものを玉造さんの学校建設に使うというようなことを別紙ということで提案がありましたけれども、この件につきましては、私ども3人で、いろいろな長い歴史の状況が各町にございます。その中で、玉造さんが基金として建設をしていたものに関しては、ほかには絶対使わないでそこに使うんだという話は、3人で協定といいますか、話を詰めてございます。これが、たまたま、今、協議会の中で橋詰委員さんが発表したといいますか、要望したということでもありますから、これは別紙でどこに書こうが、もう決めてあるわけでもありますから、それはいいと思います。

ただ、それに対して公にするということは、いろいろな議論もまた出てくるということも考えなくてはいけないと思います。ですから、その辺がちょっと話なんですけど、どうですか、これ、玉造の町長さんにお聞きしたいのですが。

○坂本副会長 この件に関しては、私は、一番最初にそういう形は皆さんの前で話したかと思っています。というのは、1年数カ月になるんですが、私の選挙戦のときも、相手側が、他町村の基金から起債からグラフで、印刷して各戸へ配って、こういうので、3町では割が悪いだろうというような、そういうのまでも訴えての選挙戦になりました。

そういうことで、町民が、確かに数字的なものは、玉造が健全財政をやるということで、皆さんもご存じのとおり、起債と基金が2年前くらいまでは、一般会計が平成13年度決算では五分五分でしたから、それが一昨日の平成15年度の決算では、玉造町のやつも全体的には30億円あったのが、21億円程度に減ったというか、そういう形でありますから、これは町村合併をしなくてはならないということなんです。

まだ施設整備としては10億何千万円というかありますので、それをもとにぜひ。私のところが、北浦さんが文化ホールをつくったから、では、玉造も負けないで文化ホールではないわけですから、学校でも一番古くなったやつを建てるということですから、そこら辺をこの協議会の中で入れていただかないと、玉造町は、そういうのをみんな周知してしまっているものから、「町長、持参金つきで行くのかよ」とか、そういうかなりの、座談会をやった中でもあったものですから。そういう学校関係、また幼稚園、中学校とか幼稚園をつくれば、基金とか起債が3町で大体右へ倣えになるのかなということでありまして、もちろん、それが玉造でつくれば、その後は、麻生さんでも特例債でつくっていくような流れにはなるかと思うのですから。私の方は、私になったときすぐに、単独でもやろうということも、もちろんそれは北浦さんに見習ってなんですけど、建設委員会も一昨年から立ち上がっているし、基本構想も発注しているというか、そういう形でやっているものですから、それをぜひ見えるような形で出してい

ただければ、座談会などでの説明会が、町村合併もスムーズにいくのかなど。そこらのところをご理解していただきたいとか、お願いできればとか、その基金の中でつくっていただけるといふことによろしいでしょうか。

○横山会長 それでは、事務局からお願いします。

○江寺事務局次長 今、建設計画に別紙ということでお話がありましたけれども、第2回の協議会、3回目の協議事項として、財産の取り扱いを提案させていただいたところで、その旨のものを実は入れさせていただいたのをご記憶だと思います。

若干その経過も踏まえて話させていただきますと、3町長さんの会議を持ちまして、財産の取り扱いについて、ほかの協議会ではすべての財産を新市に引き継ぐという調整方針で決定しているのが一般的な例だということでお話を申し上げました。それとあわせて、基金の額に著しい差異がある場合等については、別途必要な協議と必要な調整方針を盛り込んだ方がいいのではないのでしょうかということ、3町長でご相談をさせていただいたということがございます。

そのときの確認といたしましては、3町で合併前に持っている財産については、すべて新市に引き継ぐんだということ。それから、基金の取り扱いとして、基金については、当然新市において再編統合はします。ただし、特定の目的の基金の中で、施設整備等、事業実施を目的として積み立てをしていたものについては、新市においてその目的に使うということを目的に基金を引き継ぐんだということ、3町長さんでご協議いただいて意思の確認をさせていただきました。

それに基づいて、財産の取り扱いの2番の中で、基金については再編統合を行い、新市において必要な資金を創設する。なお、施設整備等に係る特定の目的の基金については、現行のとおりに新市に引き継ぐということで、現行の目的を達成するための資金として引き継ぐんだということを確認させていただきましたので、その旨でご了解をいただければありがたいというふうに思っております。

○横山会長 お願いします。

○橋詰委員 ですから、建設計画の中の「教育・文化の充実」という項目の中の「学校教育の充実」という欄の中の本案に入れていただくのが、今言った「昭和40年代に云々」というところの文章を入れることでありまして、その別紙に、今の玉造の問題について書き加えてもらいたい、これは何ら異存はないと思うんです。別紙ですから。それで、期日も入れていただきたい。

○横山会長 どうぞ。県で助けてくださいよ、これ。

○岡田委員（藤咲委員代理） 今の2番目に配付された部分です。「優先的に建設し、教育環境の充実を図る」というのが、結局これは、一つは玉造町さんの中学校なり幼稚園と意味しているということですよね。

それから、別紙という部分ですが、先ほど事務局からお話したと思うんですが、あれは協定項目の中に入るわけですよ。これは全部でサインするんです。協定項目という形で、最終的には協定一覧表の中が出てくるんですが、これは後でほかのところを見せてもらってもわかりますけれども、皆さん方が最後のときに合併協定書というのにサインします。その中に、今の言葉が入るんです。今、事務局が読み上げた言葉が入るんです。ですから、それは不文律といいますか、間違いなくこれは実行するという前提で、これは知事も立ち会いますので、我々の方としては、建設計画の中では、それは読み切れるというふうな判断をいつもさせていただいているというふうな状況でございますので、この本文にさらに別紙をつけるというのは、ちょっといかがなものかなというふうに感じております。協定項目の中に間違いなく入ると思います。

○横山会長 どうですか、橋詰委員さん。

○橋詰委員 それは、前回この問題について私がお話をしたところ、別紙でいかがなものかなと提案したのは事務方であります。私が提案したわけではないんです。ですから言っているわけでありまして、私は決して無理な話を言っているわけではないんです。言い返すようですが、提案したのは私ではないんですよ。別紙の案を出したのは事務方が出したわけです。だから、無理はないだろうということなんです。これは学校教育関係の問題ですから、ぜひお願いをしたいと、こう思うわけです。

○横山会長 ですから、今休憩をとって、この昭和40年代の云々の何の文言を入れるということで今協議したでしょう。ですから、橋詰委員さん、それで、後は協定項目の中に全部入って、全員が調印するということだそうでありますから、その辺はひとつご理解をいただけないでしょうか。町長さん、ひとつ説得してください。

○橋詰委員 町長も腹は一緒ですよ。

○横山会長 一緒なの。

○橋詰委員 私に言わせているわけだから。別紙の原案を見せてくださいよ。

○江寺事務局次長 別紙の原案はつくっておりませんので、資料ということではできませんけれども、もともと別紙だからということで、それがすべて詳細まで盛り込めるということ

で、我々考えていたものではございません。最大限趣旨を踏まえた内容をどのような形で反映させたらいいかということで、最終的に本文の中にこのような形で盛り込ませていただいたということでもありますので、別紙ということを前回お話しさせていただきましたが、再三再四我々も時間をかけて検討させていただいた結果、こういう形にさせていただいたということでご理解を賜りたいと思います。

○横山会長 はい、どうぞ。

○橋詰委員 それで、この問題ばかりいつまでもというわけではないでしょうから、検討させていただいて、本文には、今のことについては、文言に本当は学校関係を入れていただきたかったんですが、老朽施設とかそういうような言葉になっておりますけれども、別紙の案について作成していただくよう、また検討していただくようお願いをします。ぜひ、これは、前回聞いた上で別紙という話は出ていましたので、会議録を見ていただければわかると思います。別紙を提案したのは、ほかならぬ事務方であります。

○横山会長 宮内委員さん。

○宮内勲委員 そうであるならば、こういうことはどうでしょうか。「なお、昭和40年代に整備した老朽施設（玉造中学校・幼稚園）については、最優先に建設し、教育環境の充実を図る」、括弧でくくって1つの文章にすることはどうでしょうか。

○横山会長 宮内委員さん、それができないからみんなで苦労しているわけです。それが、1町だけの名前をここの文言に入れるのができないから、みんなで苦労しているんです。ですから、それは取り下げてください。

○宮内勲委員 それならば、最初からこんな会議は成り立たないでしょう。

○横山会長 ですから、3町が合併するのに、1町の中学校、幼稚園だけの名前を書けますか。

○宮内勲委員 いや、それは私も。

○横山会長 そうでしょう。だからみんな苦労しているんです。

議長（玉造町高野議長）。

○高野委員 いろいろな意見の中で、大変玉造町も頑張っているなということと、またかという意見もございましょうが、今、皆さん方の話は、この文言の中で決着したと思います。しかしながら、橋詰委員が心配しておるのは基金についてでありますから、これは、やはり我々が信頼する会長、副会長、3名の方において、玉造町の問題を含めてお諮りをしていただいておりますから、信頼される我々の会長、副会長に一任をして、玉造町のことでありますから、ひとつそういうことで私をご提案申し上げたいと、かように思います。

よろしくどうぞ。

○横山会長 それでは、この件につきましては、先ほど事務局からお話した文言を入れると。そして、別紙の話ですね。これは、先ほど事務局が発表したやつではだめですか。事務局が三者会議をして、基本の何もここにあるんです。先ほど発表した。それが、今度は公に出てくるんです。

○橋詰委員 中学校とか幼稚園とかそういうような特定の名前は出しにくいから、それは別紙ということをお願いをしたいということを行っているわけで、さっきのご説明は、そういう特定の名前は出ていませんので。

○横山会長 どうしても玉造中学校、玉造の幼稚園という名前が欲しいということですか。

○橋詰委員 そのための施設整備基金なんかを持ってくるわけですから。

○横山会長 それはそこで使うんですよ。

○橋詰委員 ですから、それだけに一緒になるわけでしょう。

○横山会長 そうですよ。

○橋詰委員 だから、行方市の玉造だけが一番老朽化しているわけですから、別紙なら名前を入れても差し支えないだろうと、それだけのことでですよ。ですから、こちらの宮内さんが言ったように、括弧に入れてもらえれば、我々も何も言わない。

○横山会長 だから、別紙でも何でも、玉造だけ特定に入れるというわけにはいかないでしょう、みんなが理解していても。

それでは、3人の町長にお任せをしていただいでよろしいですか。

(異議なし)

○横山会長 それでは、きょうは継続にするしかないですか。では、休憩をやって3人で話し合いますか。後でいい。

(発言者あり)

○横山会長 それでは、新市建設計画(案)につきましては、先ほど事務局がお話をしました「昭和40年代に整備した老朽施設については、現時点で計画している施設を優先的に建設し、教育環境の充実を図る」これをこの文言に入れるということでご理解をいただきたいと思えます。

それから、別紙の方のお話でありますけれども、これは、3人の町長でこれからよく協議して、入れるか入れないかを多分入れるようになると思うんですが、そのようなことにしたいと思います。

それで、新市計画（案）につきましては、ただいまの原案のとおり決定してよろしいでしょうか。

（異議なし）

○横山会長 それでは、決定をさせていただきたいと思います。

次に、協議事項⑤でありますけれども、使用料、手数料等の取扱いについてを議題といたします。

事務局より説明をお願いします。

○磯山調整班長 事務局の磯山です。

前回お配りしてある提案事項資料の1ページをごらんください。

協議事項5、協定項目15、使用料・手数料の取扱いについて説明いたします。

留意事項等につきましては、使用料、手数料については新市の速やかな一体性の確保や住民負担に配慮しつつ、これまでの料金改定の経緯や受益者負担の原則を基本に、サービスに対する適正な負担額を決定し、できる限り統一することが望ましいものと考えられます。しかし、差異の著しいものや事情により合併時に調整が困難なものは、当分の間現行のとおりとするなどの緩和措置を講ずることも必要と考えられます。

3町の主な使用料、手数料の現況は、前回説明したとおりでございます。

以上を踏まえて、1ページの調整方針（案）を見てもらいたいと思います。

調整方針（案）といたしましては、1、使用料については、原則として現行のとおりとする。ただし、同一または類似する施設の使用料については、住民負担の公平性の観点から、可能な限り統一する。また、必要に応じて緩和措置を講ずるものとする。2、手数料については、3町におけるこれまでの料金改定の経緯や受益者負担の原則を基本にサービスに対する適正な負担額を検討し、合併時に統一する。

以上、提案させていただきます。よろしくをお願いします。

○横山会長 ただいま事務局からの説明が終わりました。皆さんにご意見を承りたいと思います。

ございませんか。

どうぞ。

○橋詰委員 1つだけお尋ねしたいんですが、公図がありますね。税務課でやっている土地の公図、こういったものについては、玉造では1枚幾らという金額よりも、ポイントのところを中心にして、公図をコンピューターで出せます。麻生さんとか、北浦さんの方では、公図が、

右の端だとか、左の端だとか、そういった場合は、4枚重ねなければ1つの地番が出ないというようなことになっております。そういった不均衡な部分がありますので、同じ公図を1枚とるにしても、玉造の地区の公図は安くつくけれども、1枚で済むものが4枚最大限必要になるというようなこともあり得るわけですよ。現実にもそうだと思うんです。そういった面については、事務方はどういうふうを考えているか、それをちょっとお尋ねをしたい。

○横山会長 お願いします。

○磯山調整班長 一応今の意見をお聞きしまして、こういう話が出たということで、また分科会に協議してもらいこれからの協議においてそれらも協議していってくれということで、また投げ返したいと思っておりますので、一応要望という形でお聞きしておいてよろしいですか。

○橋詰委員 はい。

○横山会長 ほかにありますか。

(発言者なし)

○横山会長 ないようでありますので、使用料、手数料等の取扱いについては、調整方針(案)のとおり決定してよろしいでしょうか。

(異議なし)

○横山会長 それでは、そのように決定をさせていただきます。

次に、協議事項⑥でありますけれども、町名、字名の取扱いについてを議題といたします。

事務局より説明をお願いいたします。

○永峰総務班長 事務局の永峰でございます。よろしくお願ひいたします。

協議事項6番、協定項目18、町名、字名の取扱いでございます。

まず、現況の欄の方のご説明を簡単に差し上げて、調整方針(案)をご提案したいと思ひます。

それぞれ、現況の欄に記してありますように、麻生町に27、北浦町に15、玉造町に16の大字がございます。これらについての取り扱いということで、調整方針(案)でございますけれども、大字の区域については現行どおりとし、名称については次のとおりとする。(1)麻生町の「大字」は削除し、名称は現行どおりとする。(2)北浦町の大字の名称は現行どおりとする。(3)玉造町の大字の名称は、合併前において現町で調整をする。

以上でございます。よろしくお願ひいたします。

○横山会長 ただいまの説明に何かご質問はありますか。

(発言者なし)

○横山会長 ないようでありますので、町名、字名の取扱いにつきましては、調整方針（案）のとおり決定してよろしいでしょうか。

（異議なし）

○横山会長 それでは、そのように決定をさせていただきます。

続きまして、協議事項の⑦でありますけれども、国民健康保険事業の取扱いについてを議題といたします。

事務局より説明をお願いいたします。

○磯山調整班長 事務局の磯山です。

23ページをごらんください。

協議事項⑦、協定項目20、国民健康保険税の取扱いについて説明いたします。

まず、3町の現況について説明いたします。

概況については、ごらんのとおりでございます。

平成14年度の決算状況について訂正がありましたので、直してもらいたいと思います。一番上の1人当たりの一般会計繰入金の玉造町 9,341円を 8,895円に訂正願いたいと思います。

24ページの方をごらんください。平成16年度本算定時調定額につきましては、ごらんのとおりでございます。納期につきましては差異があり、麻生町が7月、8月、10月、11月、1月、2月の6回の納期で、本算定を1期目の7月に行っております。北浦町は4月、6月、8月、10月、12月、2月の6回の納期で、暫定賦課を1期、2期に行っており、本算定を3期目の8月に行っております。玉造町は4月、6月、8月、10月、11月、2月の6回の納期で、暫定賦課を1期、2期に行い、本算定を3期目の8月に行っております。

25ページの方を見てもらいたいと思います。

税率については3町に差異があり、平成16年度の税率はごらんのとおりとなっております。

給付内容につきましてはほぼ同一でございますが、葬祭費の給付について3町差異があり、麻生町では1件6万円、北浦町は1件5万円、玉造では1件3万円となっております。

26ページの方をごらん願いたいと思います。

高額療養費貸付についてはほぼ同一ですが、利子制度で、無利子利子要件に多少差異があります。

運営協議会の委員人数につきましては、麻生町で18名、北浦町で12名、玉造町で15名です。

健康づくり事業につきましては、ごらんのとおりとなっております。

以上を踏まえて、23ページの調整方針（案）を見てもらいたいと思います。

調整方針（案）といたしましては、1、税率・納期・納付内容・高額療養費貸付・健康づくり事業については、平成18年度より統一するよう調整する。2、運営協議会については、合併時に統一する。

以上、提案させていただきます。よろしく申し上げます。

○横山会長 事務局より説明が終わりました。皆さんにご意見をお聞きしたいと思います。

宮内委員さん。

○宮内守委員 調整方針の運営協議会の合併時に統一するというのですが、どういうふうに統一するというふうに考えておるか、お願いします。

○横山会長 事務局からお願いします。

○磯山調整班長 運営協議会については、合併時に統一するというので、1つの市に運営協議会1つということで、人数を今から決定して、1つということで決めたいというような考えを持っているそうです。

○横山会長 よろしいですか。

○宮内守委員 人数については。

○磯山調整班長 人数については、まだ今から調整する予定です。

○横山会長 よろしいですか。ほかにありますか。

（発言者なし）

○横山会長 それでは、ないようでありますので、国民健康保険事業の取扱いにつきましては、調整方針（案）のとおり決定してよろしいでしょうか。

（異議なし）

○横山会長 それでは、そのように決定をいたします。

次に、協議事項⑧でありますけれども、福祉関係事業（その1）高齢福祉事業の取扱いについてを議題といたします。

事務局より説明をお願いいたします。

○阿部書記 32ページをごらんいただきます。

協議事項8番、福祉関係事業（その1）としまして、高齢福祉についてご説明させていただきます。

敬老事業、1番、敬老祝い金でございます。こちらは3町に差異がございます。

続きまして、33ページをごらんいただきます。

2番の敬老者名簿、3番の敬老週間訪問、これにつきましては、麻生町、北浦町で実施して

おります。4番の金婚祝賀会でございますが、これにつきましては北浦町のみの制度で、麻生町、玉造町は実施しておりません。5番目の敬老祝賀でございますが、麻生町は白帆の湯の招待券を配布ということで実施しております。北浦町につきましては、単位老人クラブで地区ごとに祝賀会を開催するという事です。玉造町におきましては、地区ごとに実施しております、式典の部、宴会の部でございます。

続きまして、生活管理指導短期宿泊事業でございます。これは、国の制度に基づいた事業ということで、ごらんのとおりの同一となっておりますが、委託先、委託料、個人負担については、北浦町に差異がございます。

続きまして、35ページをごらんいただきます。

軽度生活援助事業でございますが、これにつきましても、国の制度に基づいた事業ということで、目的、事業、対象については同一となっておりますが、以下、利用者負担、委託先、委託料に差異がございます。

36ページをごらんいただきます。

生きがい活動支援通所事業でございます。これにつきましても、国の制度に基づいた事業ということで、3町ほぼ同一となっております。

老人ホームへの入所措置でございますが、ごらんのとおり、3町同一でございます。

続きまして、37ページをごらんいただきます。

ひとり暮らし老人向け事業でございます。1番としまして、愛の定期便、これにつきましても、県の制度ということで、3町同一でございます。2番としまして、ひとり暮らし老人福祉手当でございます。これは、老人福祉法の基本理念に基づき、玉造町に居住する独居老人の福祉の向上を図ることを目的としまして、65歳以上のひとり暮らし高齢者を対象としております。内容につきましては、1人当たり年額1万円を支給しているということでございます。

続きまして、38ページをごらんいただきます。

介護慰労金でございます。65歳以上で要介護3以上の高齢者を在宅で介護している者に対して慰労金を支払う制度でございます。ごらんのとおり北浦町の支給額に差異がございます。

続きまして、高齢者住宅整備費補助事業でございます。これは、ごらんのとおり、玉造町のみの制度でございます。

39ページをごらんいただきます。

緊急通報システム、それから、下段の老人日常生活用具給付事業、その下の民間社会福祉施設補助、これらはともに国の制度に基づく事業ということで、3町同一でございます。

40ページをごらんいただきます。

老人クラブ助成でございます。これは、補助金の部分に差異がございます。

続きまして、その他の事業でございます。1番の高齢者と子供のふれあい事業、これにつきましては、玉造町は実施しておりません。2番目の高齢者のスポーツ大会、ごらんのとおりになっています。3番目の家族介護者研修会でございますが、北浦町、玉造町で年1回実施ということでございます。

続きまして、40ページをごらんいただきます。

4番のシルバー人材センターでございますが、これは麻生地区、北浦地区、玉造地区まとめて、名称としましては、社団法人行方地方広域シルバー人材センターということでございます。以下ごらんのとおりになっております。

続きまして、5番の福祉電話貸与でございます。こちらについても、ごらんのとおりになっております。

続きまして、42ページをごらんいただきます。

6番の紙おむつ支給でございますが、これは、麻生町と北浦町においては、対象者は介護認定を受けた方でございますが、玉造町におきましては、介護保険対象外の方が対象となっております。なお、玉造町では、介護認定者に対しては介護保険制度の中で同様のサービスを実施しているということでございます。

続きまして、7番の在宅介護支援センターでございます。これにつきましても、ごらんのとおりに国の制度ということで、3町同一となっております。

続きまして、43ページをごらんいただきます。

8番目のデイサービスセンターでございます。これは、麻生町のみに町所有の施設がございます。なお、麻生町のこの施設に関しては、施設の管理運営については、社会福祉法人親和会に委託しているということでございます。

続きまして、9番の給食サービスでございますが、ごらんのとおりになっております。

続きまして、10番の徘徊高齢者家族支援サービス、これにつきましても国の制度で、3町同一でございます。

老人保健事業につきましても、3町同一となっております。

それでは、32ページにお戻りいただきます。

以上の現況を踏まえまして、高齢福祉の調整方針（案）でございます。

1番、国または県が定める制度に基づき実施している事業については、次のとおりとする。

(1) 3町に差異のないものについては、現行のとおり新市に引き継ぐ。(2) 3町に差異のあるものについては、3町の均衡が保たれ、制度の趣旨及び目的が効果的に機能するよう留意し、合併時まで調整する。

2番、各町が独自に実施している事業で差異のあるものについては、地域の実情に配慮し、均一的、総合的サービス提供の観点に留意し、合併時まで調整する。(1) 敬老事業については、新市に引き継ぐものとする。事業内容については、各町のこれまでの取り組みの経緯を踏まえ、合併時まで調整する。ただし、金婚祝賀会については、合併時に廃止する。(2) 高齢者住宅整備費補助事業については、合併時に廃止する。

以上でございます。

○横山会長 事務局からの説明が終わりました。

それでは、皆さんにご意見をお聞きしたいと思います。何かございますか。

(発言者なし)

○横山会長 それでは、ないようでありますので、福祉関係事業(その1)につきましては、調整方針(案)のとおり決定をしてよろしいでしょうか。

(異議なし)

○横山会長 それでは、そのように決定をさせていただきたいと思います。

次に、協議事項の⑨でありますけれども、福祉関係事業(その2)児童福祉事業の取扱いについてを議題といたします。

事務局より説明をお願いいたします。

○阿部書記 45ページをごらんいただきます。

協議事項9番、福祉関係事業(その2)児童福祉についてご説明させていただきます。

まず、児童手当でございますが、国の制度に基づく事業ということで、3町同一となっております。

46ページでございます。

児童扶養手当、こちらにつきましても、国の制度に基づく事業ということで、3町同一でございます。

47ページをごらんいただきます。

特別児童扶養手当、こちらも国の制度に基づく事業ということで、3町同一でございます。保育所でございますが、まず、保育所数及び定員でございます。麻生町は私立保育園2カ所ございまして、定員が165名となっております。北浦町におきましては、私立保育園1カ所、定

員80名でございます。玉造町が私立保育園3カ所ということで、定員210名となっております。保育料と保育時間につきましては、ごらんのとおり3町に差異がございます。

続きまして、48ページをごらんいただきます。

私立保育所助成でございますが、これは、3町のそれぞれの保育園で実施している国・県・町の補助事業でございます。こちらはごらんのとおりとなっております。

続きまして、49ページをごらんいただきます。

医療費助成でございます。まず、医療福祉費制度でございますが、これは県の制度に基づく事業ということで、3町同一となっております。

続きまして、医療費助成、町単独のものでございますが、1番としまして、未就学児の医療費助成がございます。これは、玉造町のみ制度となっております。子育て支援の一環として、未就学児の医療費負担の無料化を図ることを目的としまして、義務教育就学前の玉造町に住所を有する方で医療保険に加入している人を対象として実施しております。助成の内容としましては、医療機関受診の際に発生する保険診療個人負担分を後日申請手続の上返金ということでございます。

続きまして、50ページをごらんいただきます。

2番としまして、妊産婦外来自己負担分助成でございます。こちら、町の単独の事業となっております。これにつきましては、麻生町と北浦町で実施しております。

続きまして、3番の乳幼児外来自己負担分助成でございますが、これにつきましては、麻生町と玉造町で実施しております。

51ページをごらんいただきます。

子育て支援事業でございますが、これは、少子化や核家族化などに対応し、地域で安心して子育てができる環境をつくるということを目的としております。麻生町では学童保育、北浦町におきましては放課後児童クラブ、玉造町におきましては、キッズキャビン、エンゼルサポート、子育て広場、ス・トミック講座、子育て相談、アタッチメントケア、アタッチメント教室、0歳児親子教室、のびのび教室、どろんこキッズ、休日教室、保育サポーター事業というように、以上12の事業を実施しております。なお、麻生町、北浦町においては、健康増進課、生涯学習課、あるいは健康推進課等で、玉造町と類似の事業を実施しているということでございます。類似事業については、ごらんのとおりとなっております。

続きまして、52ページをごらんいただきます。

次世代育成事業でございます。目的については、ごらんのとおりとなっております。なお、

この事業については、平成17年度事業開始に向け各町で現在次世代育成事業の地域行動計画を策定中であるということです。

53ページをごらんいただきます。

母子福祉でございます。1番としまして、母子寡婦福祉資金貸付でございますが、県の制度に基づく事業ということで、3町同一となっております。

45ページへお戻りいただきます。

以上の現況を踏まえまして、児童福祉の調整方針（案）でございます。

1番、児童手当、児童扶養手当等の国または県が定める制度に基づき実施している事業で3町に差異がないものについては、現行のとおり新市に引き継ぐ。2番、保育所保育料については、国の徴収基準及び近隣市町村の保育料を参考に合併時まで調整する。3番、私立保育所助成については、合併時は現行のとおりとし、新市において調整する。ただし、保育所給食費補助については、合併時に廃止する。4番、医療費助成（町）については、現行のサービスを低下させないことを原則に調整し、統一する。5番、子育て支援事業については、現行のサービスを低下させないことを原則に、新市において調整する。6番、次世代育成事業については、次世代育成支援対策推進法の規定に基づき、地域行動計画を新市において新たに策定する。

以上でございます。

○横山会長 事務局からの説明が終わりました。

それでは、皆さんにご意見をお聞きしたいと思います。何かございますか。

（発言者なし）

○横山会長 それでは、ないようでございますので、福祉関係事業（その2）につきましては、調整方針（案）のとおり決定してよろしいでしょうか。

（異議なし）

○横山会長 それでは、そのように決定をいたします。

続きまして、協議事項の⑩でありますけれども、福祉関係事業（その3）社会福祉事業の取扱いについてを議題といたします。

事務局より説明をお願いいたします。

○阿部書記 それでは、55ページをごらんいただきます。

協議事項10番、福祉関係事業（その3）社会福祉でございます。同じように、事務事業の現況について説明させていただきます。

まず、生活保護でございますが、国の制度に基づく事業ということで、3町同一でございます。

す。

56ページをごらんいただきます。

障害児福祉、（１）在宅心身障害児福祉手当でございます。１番としまして、在宅心身障害児福祉手当でございますが、これは県の制度に基づいた事業ということで、３町同一でございます。２番としまして、在宅心身障害者福祉手当でございますが、これは玉造町のみで制度でございます。これは、在宅重度心身障害者の保護者に手当を支払うことにより、これらの障害者の介護に当たる保護者とその家族の精神的・身体的労苦に報い、福祉の増進を図ることを目的としております。支給対象者は、重度の障害者であり、保護者と同居している者が対象となっております。支給額については、１人につき年額１万円となっております。

続きまして、57ページをごらんいただきます。

（２）福祉手当でございます。これにつきましては、国の制度で、３町同一でございます。

（３）その他の心身障害者（児）援護施策でございますが、１番から10番は、国または県の制度に基づく事業ということで、３町同一となっております。

58ページの11番の人工透析通院補助については、北浦町独自の制度ということで、麻生町、玉造町では実施しておりません。

58ページをごらんいただきます。

12番の心身障害者福祉作業所でございますが、これは、麻生町、北浦町は、ほぼ同一の制度でございます。玉造町におきましては、現在実施に向け準備中ということでございます。

続きまして、59ページをごらんいただきます。

13番の身体障害者更生訓練費支給、14番の身体障害者就職支度金支給、これはいずれも国の制度で、３町同一でございます。15番の重度心身障害者福祉タクシー事業、これにつきましては、目的、事業内容については３町同一でございますが、対象者については、玉造町で、ほか２町より対象範囲が若干広がっております。16番の支援費制度でございますが、国の制度ということで、３町同一でございます。

続きまして、60ページをごらんいただきます。

17番、在宅身体障害者デイサービス、18番、精神障害者居宅介護等事業、19番、精神障害者短期入所事業、61ページの20番、精神障害者地域支援生活援助事業、これらにつきましては、国の制度に基づく事業ということで、３町同一でございます。

続きまして、福祉施設整備及び運営補助事業、それから、下段の民間社会福祉施設補助、これにつきましても、国の制度ということで、同一でございます。

その他の福祉でございます。1番としまして、戦没者追悼式でございますが、麻生町におきましては、献花方式により3年に一度開催ということでございます。北浦町におきましては、同じく献花方式により開催で、これは毎年開催となっております。玉造町におきましては、神仏対応で、やはり毎年開催ということでございます。以下、ごらんのとおりとなっております。

62ページをごらんいただきます。

2番としまして、災害弔慰金でございますが、これは、自然災害により死亡した人の遺族に対して、災害弔慰金、災害障害見舞金、災害援護資金の貸し付け等を行う事業でございますが、3町に差異がございます。3番の災害見舞金でございますが、これは北浦町のみの制度となっております。4番の民生委員でございますが、任期については平成16年11月30日で3町同一でございますが、その他については差異が見られます。

続きまして、63ページをごらんいただきます。

その他としまして、1番の麻生地区保護司会、それから2番の麻生保護区更生保護女性会、これは、どちらも麻生支部、北浦支部、玉造支部がそれぞれの町に設置されております。

続きまして、3番の日本赤十字社関係事務でございますが、これは、麻生、玉造は社費が1世帯当たり500円で、徴収は区長に依頼ということで、同一でございます。北浦町におきましては、社費が1世帯当たり1,000円で、徴収は協賛委員に依頼ということで、若干の差異がございます。

それでは、55ページをごらんいただきます。

社会福祉の調整方針（案）としまして、1番、生活保護については、新市で設置する福祉事務所において、法令等に基づき実施する。2番、国または県等が定める制度に基づき実施している事業で3町に差異がないものについては、現行のとおり新市に引き継ぐ。3番、各町が独自に実施している事業については、これまでの取り組みの経緯や今後の福祉施策の方向性を総合的に検討し、合併時まで調整する。（1）としまして、心身障害者福祉事業所については、現行のとおり新市に引き継ぐものとする。なお、就業時間等については、合併時まで調整し、統一する。（2）重度心身障害者福祉タクシー事業については、合併時に玉造町の制度をもとに統一する。（3）戦没者追悼式については、合併年度は旧町単位で実施し、翌年度以降は新市において関係機関と協議し、調整する。（4）災害弔慰金については、合併時に北浦町の制度をもとに統一する。（5）災害見舞金については、合併時に廃止する。4、民生委員協議会については、合併時まで調整する。5、保護司会及び更生保護女性会については、合併時まで調整する。6、日本赤十字社関係事務については、合併時まで調整する。

以上でございます。

○横山会長 ただいま、事務局からの説明が終わりました。

それでは、皆さんにご意見をお聞きしたいと思います。

橋詰委員さん。

○橋詰委員 この文言の、3町でそれぞれ各事務方がすり合わせをして、現況を出していただいたと思うんですが、表現の仕方等については、統一がなかなかとれてないように思うんです。

例えば、58ページの真ん中あたりにありますが、対象者の「3）衣服の着脱、食事、排泄などの身辺自立ができ」と、こう書いてありますが、これは麻生さんの書き方ではありますが、北浦町さんの方では「排泄などの周辺」と、同じような片括弧の「衣服の着脱、食事、排泄などの周辺自立ができ」ということで、「身辺」とか「周辺」とか、またはその下の欄にありますように、片括弧で、麻生町さんの方は「療養中でない者」、北浦町さんは「療養中でない人」と、やはり不統一な表現が結構あるんですが、これは、一応推敲して、どなたかが出していると思うんですけれども、これについて。

例えば、55ページは、これも気がついたと思うんですが、調整方針（案）の3の「1）心身障害者福祉事業所」と書いてあります。これについて、今も事務局は事業所と、こう申し上げたように私も聞いておりますが、これは、作業所ではなかろうかと思えます。麻生さんと北浦さんの方では心身障害者福祉作業所ということでもありますので、こちら辺はミスプリントというか、ある程度推敲されて事業所と書かれたのか。また、「人」とか「者」とかの違いについて、「周辺」とか「身辺」とかというものの文言の違い、こういうものはできるだけ統一していただきたいと思うんですが、どんなものでしょうか。

○横山会長 事務局より説明をしてください。

○江寺事務局次長 まず、調整方針（案）の「事業所」の部分ですけれども、これはまことに事務方のミスで、失礼をいたしました。「作業所」ということで訂正をお願いしたいと思います。

あと、実は、そのほかの文言の統一がなされてないという部分でございますけれども、3町で、条例なり規則なりで規定されている文言をそのまま盛り込むような形で資料作成をした関係で、若干違いがあるのかなのかということも含めて、わかりにくい面があったかと思えますので、この辺は、可能な範囲で、うちの方で統一するような方向で進めさせていただきたいと思えますので、よろしく願いいたします。

○横山会長 よろしいですか。

ほかにありますか。

(なし)

○横山会長 それでは、ないようでありますので、福祉関係事業（その3）につきましては、調整方針（案）のとおり決定してよろしいでしょうか。

(異議なし)

○横山会長 それでは、そのように決定をいたします。

続きまして、新市特別職の報酬等を審議する小委員会の設置についてを議題といたします。

事務局より説明をお願いいたします。

○江寺事務局次長 それでは、新市の特別職の報酬等を審議する小委員会の設置ということで、前回ご提案をいただきまして、設置をするということまでご決定をいただきましたので、その内容について本日ご協議をいただくということで、資料の方をお配りしてあるものでございます。

本日お配りをしてあるものをごらんいただきまして、協議事項11の資料でございます。

名称につきましては、新市特別職報酬等審議小委員会という名称でいかがかという内容でございます。

付託事項につきましては、新市の特別職等の給料、報酬について審議等を行うことということで、1)で常勤特別職等の給料、そして、2)で議会議員の報酬、3)で非常勤特別職の報酬、4)でその他の必要な事項ということで考えております。なお、こちらの方で特別職等についてすべて審議を行うというような形でご提案を申し上げますけれども、すべての特別職について額まで決定するというのは、実際難しいところがあるのかなというふうに思っておりますので、常勤特別職、それから議会議員、そして法定の行政委員会につきましては、その考え方、そして額についてご協議をいただくというようなことを前提に進めさせていただく。それから、条例に基づいて、何か検討委員会的なものについて、いろいろな協議会、審議会等を設けておりますけれども、そういうものについては、基本となる考え方についてご審議をいただくということで考えていきたいというふうに思っております。

そして、委員の構成につきましては、各町4名ずつということで、後ほどこれについては説明を差し上げたいと思います。

設置時期につきましては、設置を決定した日ということで、この内容をご承認いただいた時点で設置をさせていただくというようなことでお願いをしたいと思います。

次のページをごらんいただきたいと思います。

各町4名ずつということで、委員の選任についてでございます。前回、「議会議員の定数、任期の取扱い」について協議をいただいた中で、ご提案をいただいたわけでありますけれども、すべての特別職等の報酬の額について審議をしてもらいたいという趣旨でありましたので、委員の構成につきましては、議会、そして学識経験者、行政関係者ということで、この協議会から幅広く小委員会の方に入っていただくというようなことで、委員構成としては、議会代表者1名、学識経験者2名、行政関係者1名ということでご提案を申し上げたいと思います。

事務局としての1つの案、想定といたしましては、議会代表につきましては、特別委員会の委員長さん、学識経験者につきましては、4名各町いらっしゃいますので、4名でご協議をいただきまして、2名ずつ出していただければと、そして、行政関係者については、各町の収入役さんをお願いできればというような案を持っておるところでございます。

そして、こちらの資料にはついておりませんが、10月から12月をおおむねの目標時期ということで作業を進めてまいりたいというふうに考えております。そして、資料といたしましては、県内の市、そして郡内の町村の額、そのような資料をご用意させていただきました、それによりましてご協議、ご検討をいただくというようなことでお願いをしたいというふうに考えておるところでございます。

以上、提案をさせていただきます。よろしくご審議のほどをお願い申し上げます。

○横山会長 事務局より説明が終わりました。

それでは、皆さんにご意見をお聞きいたしたいと思います。何かご意見ございますか。

この委員構成についても、何かご意見があれば聞かせていただきたいと思います。

(なし)

○横山会長 これではよろしいですか。

(異議なし)

○横山会長 それでは、ないようでありますので、小委員会の設置につきましては、原案のとおり決定をしてよろしいでしょうか。

(異議なし)

○横山会長 それでは、そのように決定をいたします。

なお、委員選任の協議につきましては、各町でそれぞれ次回協議会までにその結果を事務局へ報告していただきますようお願いをいたしたいと思います。

次に、議題の(2)でありますけれども、その他について、事務局から説明をお願いいたし

たいと思います。

○江寺事務局次長 それでは、次回の協議会の開催日の件でございます。第13回の協議会につきましては、10月19日火曜日午後1時30分から、玉造町役場において開催をしたいと思いますので、よろしく願いいたします。ただいま、会議の開催通知の方をお配りをさせていただきますので、よろしく願いを申し上げます。

それから、ただいま小委員会設置の内容等につきましてご決定をいただきましたので、13回の会議が終わりましたら、恐縮ではございますけれども、第1回の小委員会の方を開催させていただきたいというふうに思っておりますので、あわせてよろしく願いを申し上げます。

あともう1点でございますけれども、建設計画につきましておおむね了解をいただいたということでございますので、10月の後半以降、各町におきまして、住民説明会等の開催を予定させていただきたいと思っておりますので、あらかじめこの場でご連絡をさせていただきたいと思っております。

以上でございます。

○横山会長 それでは、議題につきましては以上でございます。

皆様方には、長時間にわたりましてご協力をいただきまして、まことにありがとうございます。進行役を事務局へお返しいたしたいと思っております。よろしく願いします。

○羽生事務局長 ありがとうございます。

それでは、坂本副会長より閉会のごあいさつをお願いいたします。

○坂本副会長 長時間にわたり、もう5時過ぎたというか、執務時間を過ぎたころの時間になりましたが、長時間ご苦労さまでした。

これにて第12回行方郡合併協議会を閉じさせていただきます。

ご苦労さまでございました。

(閉会 17:08)